



REAL RACING

日程:公式予選 2017年9月23日(土) 決勝レース 2017年9月24日(日)

会場:スポーツランド SUGO (3.704 km)

天候:公式予選/曇り・コース:ドライ

決勝/晴れ コース:ドライ

気温:公式予選/ 21°C 路面温度/ 22°C(13時15分時点)

決勝/26°C 路面温度/41°C(14時10分時点)

宮城県スポーツランド SUGO において、全日本スーパーフォーミュラ選手権第6戦が開催された。前2大会のレギュレーションはドライタイヤの2スペック制で行われたが、今大会はミディアムタイヤのみを使用してのレースとなる。またタイヤ交換そして給油の義務はなく、各チームによって戦略の分かれるレースとなることが想定された。

ここ数戦でマシンの速さを実証済みのリアルレーシングは、その速さを結果につなげるべく、精神一到の気持ちでスポーツランド SUGO 戦に臨んだ。

9月23日(土)公式予選日。早朝は前夜からの雨で一時はウェット宣言となったスポーツランド SUGO だったが、午後には曇り空へと変化。ノックアウト予選開始の定刻となる13時15分には、気温21°C、路面温度22°Cというドライコンディションとなった。予選が開始すると同時に#10 塚越広大はコースイン。前半のアタックラップに入った塚越は3周目に1'06.959のベストタイムを計測する。そして、後半セッションに向けた微調整を行うため、ピットへマシンを戻す。その後再度コースインし、セッション残り時間が3分を切ったところで、1'06.162のベストタイムを更新し、Q1を14番手で突破、Q2へと進出することとなった。

Q1終了から10分が経過し、14台から8台に絞られる7分間のQ2が開始。コースインした塚越は、タイヤのコンディションを調整しながら走行を開始。タイヤを十分に温めいよいよアタックに入った塚越だったが、アタックの途中でマシントラブルが発生してしまい、マシンをピットに戻す。残念ながら、そのままQ2セッションは終了し、翌日のスターとは14番手からと出走することとなった。

9月24日(日)決勝日。日差しが降り注ぎ、秋晴れとなったスポーツランド SUGO。気温が26°C、路面温度が41°Cまで上昇した中、14時10分に決勝レースはスタート。オープニングラップでポジションを一つ上げた塚越は、翌2周目にも1台をパスし、3周目に入ると11番手を走行。そして、9周目の終わり、後半での追い上げを見越し、他チームより早めのピット作業に入った塚越は給油を行い、再度マシンをコースに戻す。その後、他チームの戦略を見極めながら、前を行く車両の隙を狙い16番手で走行を続けていた塚越は、43周目に入ったホームストレート上で1台のマシンをパスしようとしかけたところ、同マシンと接触しフロントウイングに損傷を負う。そのまま様子を見ながら走行を続ける塚越だったが、51周目を終えるとマシンの修復を図るためピッ



REAL RACING

トイン。フロントウイングとタイヤを交換し、18番手でコースにマシンを戻した。最後まで諦めない走り続け、59周目に1'07"888のベストタイムを計測。ファイナルラップ直前で、他チームがトラブルによりマシンを止めることとなり、塚越は16位でチェッカーを受けることとなった。

今シーズンも残すところ、最終戦の鈴鹿のみとなりました。鈴鹿はHondaのお膝元、そして私たちチームのファクトリーが在する、まさにホームレースとなります。マシンの速さを実感しながら結果につなげることが叶わず、悔しさを感じながら今シーズンを戦って参りました。この悔しさを大きな糧に、ホームレースとなる鈴鹿ですべてを出し切るべく戦って参ります。

皆さまの変わらぬご声援をよろしくお願いいたします。